

小学校算数

1 (2) 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

(2) あいりさんは、自分たちが住んでいる都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかを調べています。調べていると、2013年と2023年について、右のグラフ2とグラフ3を見つけました。



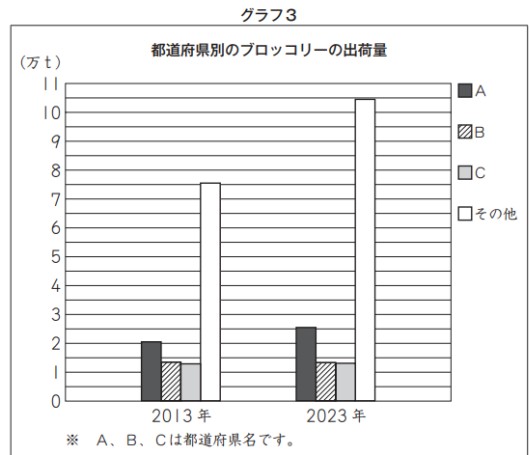
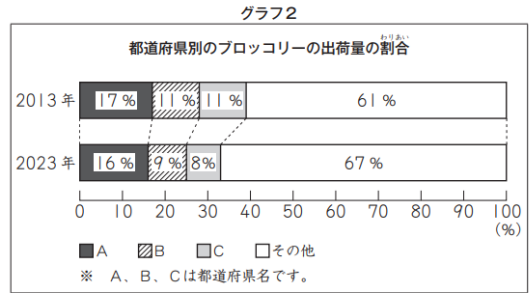
グラフ2とグラフ3を見つけたけれど、どちらか一つのグラフを見れば、都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかわかります。

2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より増えたかどうかを、下のアとイから選んで、その記号を書きましょう。

また、その記号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。そのとき、どちらのグラフのどこに着目したのかがわかるようにしましょう。

ア 2023年は2013年より増えた。

イ 2023年は2013年より減った。



学習指導要領における領域・内容

〔第3学年〕D データの活用

(1) データの分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ) 棒グラフの特徴やその使い方を理解すること。

〔第5学年〕D データの活用

(1) データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 円グラフや帯グラフの特徴とそれらの使い方を理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察すること。

正答及び正答率等

正答	正答率	誤答率	無答率
(正答の条件) 記号を ア と選び、次の①、②の全てを書いている。 ① グラフ3に着目したことを表す言葉 ② 2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より多いことを表す言葉や数	30.9%	68.3%	0.8%

主な誤答とその要因

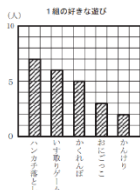
主な誤答	要因
(誤答例) 記号を イ と選び、都道府県Aのブロッコリーの出荷量の割合について書いている。 (反応率 19.2%)	都道府県Aのブロッコリーの出荷量の割合に着目し、2023年は2013年より減ったと判断している。

内容の系統と指導のポイント

小学校第3学年

教科書のここ!
小3上 P.68

棒グラフの特徴やその使い方を理解する



棒グラフについて、数量の大小や差、最大値や最小値を捉えたり、項目間の関係、集団のもつ全体的な特徴などを読み取ったりする。

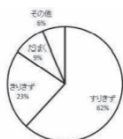
〔データの活用〕

棒グラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを棒グラフのどの部分からそのように考えたりしたのかを、ほかの人にも分かるように伝えること。

小学校第5学年

教科書のここ!
小5下 P.83

円グラフや帯グラフの特徴とそれらの使い方を理解する



4500冊	30%	70%
4800冊	40%	60%
6000冊	60%	40%
7000冊	90%	10%

全体と部分、部分と部分の間の関係を調べると特徴を捉えやすい事象があることに気づき、割合を示す円グラフや帯グラフに表したり、それを読み取ったりする。

〔データの活用〕

各帯グラフの量の合計が異なっている複数の帯グラフについては、同じ項目で比較する場合、見た目では量の大小が比較できないことを理解すること。

小学校第5学年

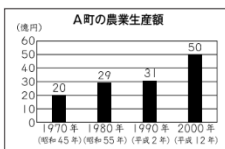
教科書のここ!
小5下 P.122

目的に応じて、適切なグラフや表を選択して判断する

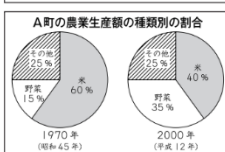
平成20年度調査問題【小学校】B2(3)

ひろしさんが住んでいるA町の農業生産額について、下の2種類の資料を使って調べます。

棒グラフは、農業生産額を1970年から10年ごとに表しています。



円グラフは、1970年と2000年の農業生産額の種類の割合を表しています。



(3) 次は、米について考えます。A町の1970年と2000年の米の生産額について、ひろしさんは、次のように言いました。

米の割合が、60%から40%に減っているから、米の生産額は、減っています。



ひろし

ひろしさんの言っていることは、正しいですか。「正しい」か「正しくない」かのどちらかを○で囲みましょう。また、そのわけを、言葉や式を使って書きましょう。

他者の考え方が正しいかどうかを判断して、その理由を言葉や式を用いて記述する。

〔データの活用〕

様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて複数のグラフから適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を表現できるようにすること。

本設問の活用の手順

目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるようにするために、

- ① 複数のグラフを提示し、数量の大小を比べる際は、どのグラフが適切か考える活動を通して、棒グラフは数量の大小を一目で捉えることができることを理解できるようにする。
- ② グラフのどの部分に着目すればよいか話し合う活動を通して、必要な情報を判断できるようにする。
- ③ グラフに表された数量の大きさを、目盛りを使いながら説明する活動を通して、出荷量の増減を判断できるようにする。